

月形町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

月形町の公共交通は、路線バス等が運行しているが、郊外部は交通空白地域が多くあり、従前より高齢者等交通弱者の足の確保が課題となっている。また、町内を循環する交通は、スクールバス(3路線)のみであり、住民混乗も行っているが、登下校時の運行のため、帰路はハイヤーを利用するしかないなど、自家用車がない住民は生活面(買い物、病院等)で利用しにくい状況にある。

通学、通院、買い物等の目的で、札幌市や当別町方面へ通じる路線バス(当別月形線)と、岩見沢市方面へ通じる路線バス(月形線)は地域間幹線系統として、また、接続する月形浦臼間の路線バス(地域内フィーダー系統 月形浦臼線)は、浦臼方面から月形高校への通学や、車を運転できない高齢者等を中心に月形町立病院への通院など、生活に必要不可欠な交通である。

今後の人口減少・高齢化を踏まえて、利用促進を図りながら、上記の地域間幹線系統や地域内フィーダー系統を確保・維持し、住民の生活交通手段を存続させていくことを目的とする。

生活交通確保維持改善計画の目標

【月形・浦臼間の平日利用者数】

R2年度(R2. 4. 1~R2. 9. 30)目標値:平日利用者数37人/日

令和2年度事業概要

月形浦臼線 浦臼駅～札比内駅前～月形駅 主系統19.5km、副系統18.7km(朝の1便を月形高校生用に副系統を設定)
1日5往復10便 無休

【車両減価償却費等国庫補助】

月形浦臼線は新規に運行を開始する路線であり、当該路線を運行するための車両を手当てすることができないため、新たにワゴン車両(14人乗り)を1台導入する

地域公共交通の現況

【路線バス】

- ・北海道中央バス(株)(月形線1路線)
- ・新篠津村営バス(1路線)
- ・(有)下段モータース(月形当別線1路線)
- ・美唄自動車学校(株)(月形浦臼線1路線)

【ハイヤー】

- ・アオヤナギ観光バス(株)(はーとハイヤー)

【スクールバス】

- ・スクールバス一般混乗(4路線)

協議会開催状況

- 令和2年5月22日 第1回協議会を開催(文書)
- 予約運行型乗合交通の実証運行内容(案)
- 地域内フィーダー系統確保維持計画(案)
- 令和2年10月30日 第2回協議会を開催
- 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価
- 予約運行型乗合交通の実証運行内容(案)

令和2年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

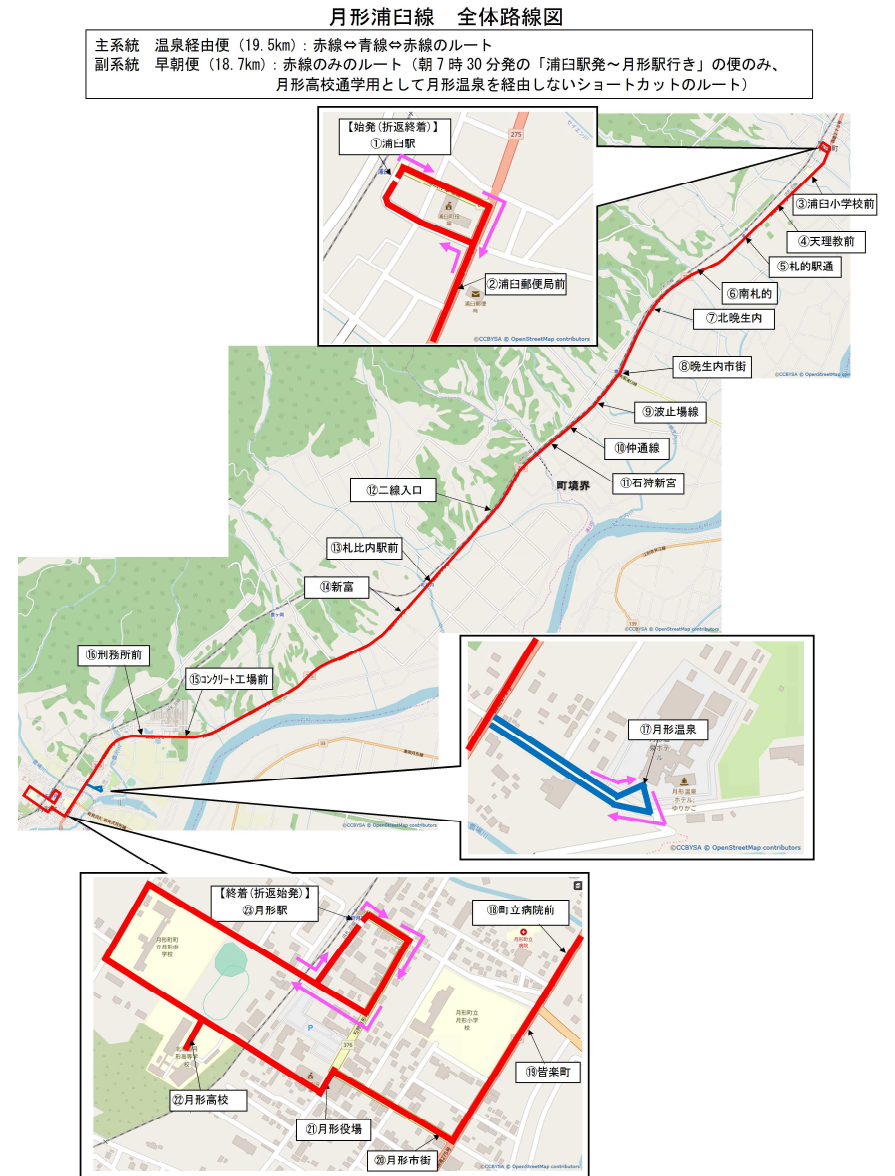
○プロセス

- ・平成31年 4月
月形町地域公共交通網形成計画
(2019年度～2023年度)を作成。
- ・令和 2年 4月
本運行系統の運行開始。

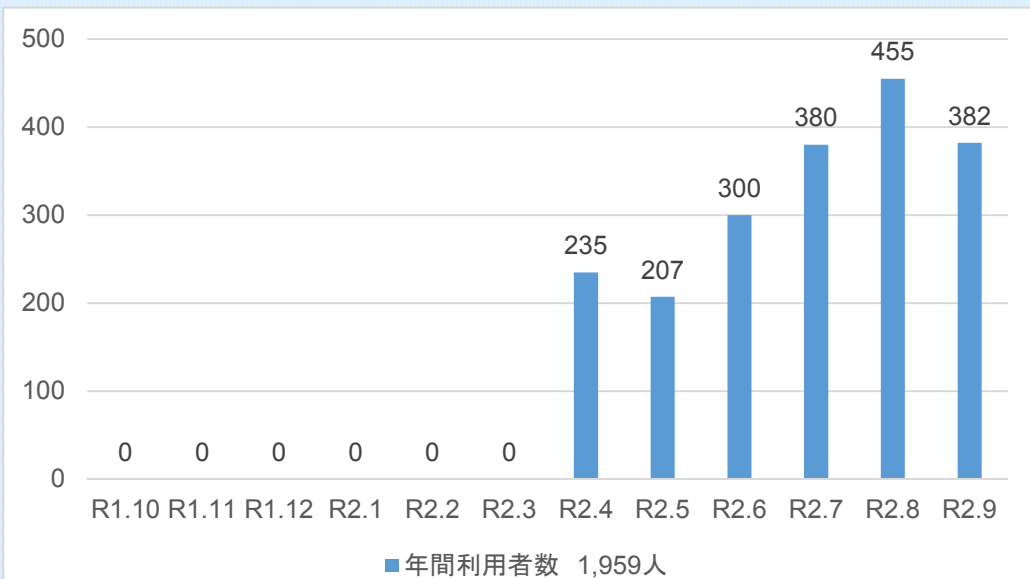
○創意工夫

- ・北海道医療大学にて、JRへの乗り継ぎができるよう、本運行系統と、月形～北海道医療大学間を運行する月形当別線との乗り継ぎがスムーズになるよう時刻を設定した。

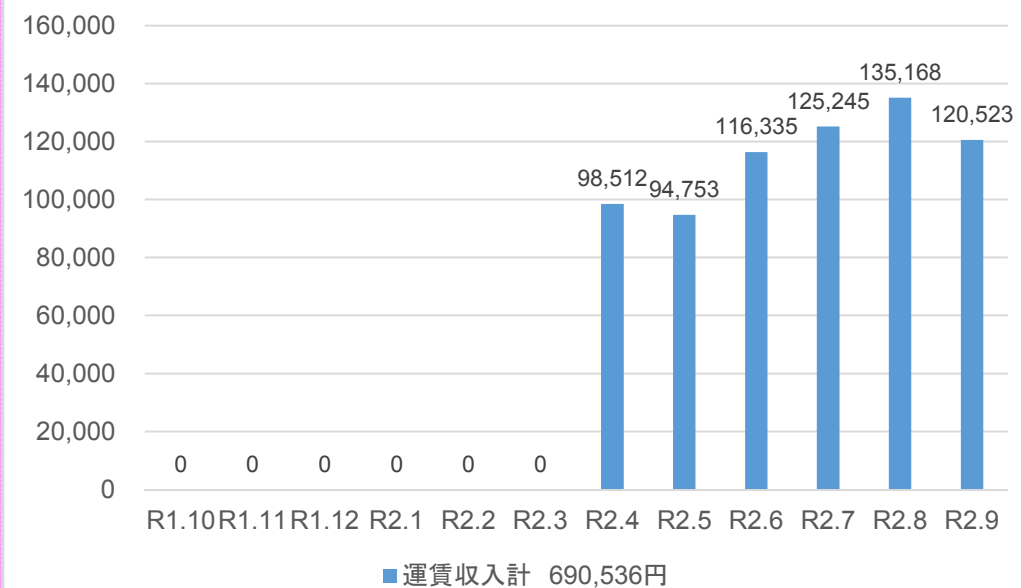
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

- JR札沼線の代替バスとして、計画どおり令和2年4月1日より運行開始することができた。
- 以下のとおり、計画どおり事業を実施した。
 - ・利用しやすいバス路線とするため、バスマップの作成、HP、町広報誌などで周知を行った。
 - ・町内会の集会や関係機関の会議時に、新たに運行していることや乗り方等について、説明を行った。

6) 目標・効果達成状況

新型コロナウイルスの影響等もあり、平日輸送人員目標37人/日に対し、11人/日であった。

7) 事業の今後の改善点

新型コロナウイルス感染症対策を実施した上で、地域の足となるようお試し乗車券を配布するなど、住民の利用促進を図る。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響等により、目標を達成することができなかったことはやむを得ない面があるものの、このままの利用水準では、補助対象外となってしまう可能性もあるため、利用者ニーズのくみ上げを行い、さらなる利用促進の取組を行っていただくとともに、利用者ニーズに合わせた運行形態の検討も必要である。
- ・今後も持続可能な事業となるよう、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。